

# わたしたちの人権

179

誰もが人間として生きていくうえで  
 侵すことのできない当然の権利

これが『人権』です

## 山都町人権を考える 町民の集い

12月10日(火) 矢部保健福祉センター「千寿苑」において山都町人権を考える町民の集いを開催しました。

集会では、町内小・中学生および高校生による人権作文の発表と社会福祉法人小国町社会福祉協議会サポートセンター「悠愛」の職員で、小国人権劇団「光座」代表の室原正孝さんによる「今日まで そして明日から」と題した講演がありました。

子どもたちの人権作文では、学校における人権学習で学んだことや生活の中での気付きなど人権に対するそれぞれの真つ直

ぐな思いや考えを発表されました。

講演では、部落差別や障がい者に対する差別など、私たちの身近にある人権問題について、室原さんがこれまで数多くの方と出会い、体験されてきたことをもとに分かりやすくお話いただきました。

集会参加者は、子どもたちの



講師の室原正孝さん

作文発表と講演をそれぞれに自分の思いと重ねながら聴き入り、人権の重要性を改めて考える1日となりました。



小・中学生、高校生の人権作文発表

ぼくは、おにいちゃん

矢部小学校 2年 森崎 朋忠

十一月一日



に、妹が生まれました。名前前は、ゆわといいます。

びょういんに行つて、はじめて見たとき、ほいくきという、とうめいのはこに入っていました。きれいな赤ちゃんだなあと思いました。

妹がほいくきから出てから、だっこさせてもらいました。だっこしているとき、かわいいなあと思いました。

妹が生まれるまえに、ひろとくんのおかあさんが学校にきて、おなかの中の赤ちゃんの話をしてくれました。そのとき、赤ちゃんがびょうきをもって生

## 子どもたちの 人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文を1・2月号で紹介いたします。今月は2名の作品を紹介いたします。

※今月は矢部小学校2年 森崎朋忠さん、蘇陽南小学校5年

まれてきたり、しんで生まれたりするときはがあると知りました。だから、妹がぶじに生まれてくるか心配していました。でも、元気で生まれてきたので、よかったです。

二年生では、ゆびで「しね」のサインをする人がときどきいました。小さいけど、みんなのちががあります。妹が生まれてから、いのちってだいじだなとつよく思うようになりました。妹だけでなく、みんなのいのちをだいじにする、りっぱなおにいちゃんになりたいです。

## 一人ひとりの体

蘇陽南小学校 5年 木村 優華



わたしは、人権学習で「この子とも」を学びました。工場

廃水でよごされた海の魚を食べ、お母さんが病気になる、生まれて子どもまでが病気になるってしまいました。よごされ

た海の魚を食べた人は、みんなとはちがう体になってしまいました。水俣病になった人は、奇病・ねこおどり病・伝染病などと差別されて、ほんとうに許せない話だと思いました。

わたしは、足をやけどしています。ふつうのやけどよりひどいやけどです。わたしは、四才のときまで、ばあちゃんの家にすんでいました。昔っばい家でほりごたつがありました。火をつけるので、ちよつとこわいです。わたしが生まれて八か月のときの冬です。お母さんが友達の家に行く前に、わたしはねて

いました。お母さんが車をとりに行つていて間に、わたしはほりごたつの中に落ちてしまいました。そのとき、ひいじいちゃんやんがとりにいたけど間に合いません。足をやけどをしてしまいました。そのとき、ひいじいちゃんも私も大泣きでした。すぐに病院に行つて診てもらいました。四回手術をしたそうです。赤ちゃんだったから、

二十四時間つきつきりだったそうです。夜も泣いていたそうです。たぶん、痛くてやけどの夢をみていたんだと思います。お母さんとおばあちゃんが、交代でわたしのめんどうをみていたそうです。

わたしは、時々、一年生から、「どうしたと、その足。」と聞かれます。わたしは、ただ、「小さいときにやけどしたと。」

と聞くだけです。わたしは、足のことはあまり聞いてほしくないので、足のことでいじめられると思つたら、聞かれるほうがましだと思いました。

四年生のときの運動会の組体操は、くつをはいたままで演技をしたけど、今年ががんばつてはだしでやりました。わたしはだしで組み体操をしていて、たのを見たお母さんは、泣いていました。遠くからお母さんの気持ち伝わってきました。わたしも、自分がはだしでやっていることにびっくりしました。少しすりむいて痛かったけ

ど、はだしでやれてうれしかったです。やけどの手術の前には、切断しないといけないという話もあったそうです。わたしは、たまに、自分の足がいやで泣いていたこともあったけど、やけどをしているだけで、歩いて走れるのでうれしいです。

わたしは、人の体に対して悪口を言ったり、ばかにしたりするのはいけないと思います。わたしみたいないやと思つている人がいるならこう言つてあげたいです。

「これは自分の体。みんなとは少しちがうけれど、その体を大切に、今を生きるのが一番だよ。」

わたしは、泣いているときにごう思いました。わたしは、今、生きています。この体を大切にしていきたいです。もし、いじめられたら、ちゃんと分かってくれるまで説明します。「こうだった。」ということ。